

# 口腔顎顔面外科学：626-4-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	*石井 良昌（口腔外科学）

学修目標 (GIO) と 単位数	<p>・口腔顎顔面領域にみられる先天異常と発育異常（奇形・変形），外傷，炎症性疾患，口腔粘膜疾患，ウイルス感染症，嚢胞性疾患，腫瘍，唾液腺疾患，顎関節疾患，神経疾患と心因性疾患，血液疾患，全身疾患と症候群は，口腔外科臨床でしばしば遭遇する疾患である。それらの基本的な病態を理解し，臨床所見を把握することは重要，不可欠であり，口腔外科臨床に直結する内容である。そのためにそれぞれの成因，病態，診断学，治療学を学び理解する。</p> <p>・4単位</p>
担当教員	<p>*石井 良昌、笠原 清弘、*山口 桜子、*飯塚 普子、*野田 一、*芹澤 多恵、赤木 南美、岩井 恵理華、林 國雄、*山本 泰、*鈴木 麻由、岡田 裕之、*内田 貴之、*久山 佳代、三枝 禎、*深津 晶、*齋藤 真規、*宇都宮 忠彦、*末光 正昌、*伊東 浩太郎、*小松 知広、*大峰 浩隆、*西村 均、*濱野 美緒、*伏見 習、*酒巻 裕之、*池谷 美和、*青木 暁宣、*渡邊 駿、八木原 一博、*釜崎 直人、*菅谷 和之、*野上 俊雄、*村井 正彦、*田島 秀人、*北村 英二、*岩井 聡、*渡邊 由梨子、*和氣 裕之</p>
教科書	<p>口腔外科学 第4版 白砂 兼光、古郷 幹彦 編 医歯薬出版 口腔外科学 第5版 工藤 逸郎 監修 学建書院 標準口腔外科学 第5版 内山 健志 監修 医学書院 サイコ・デンティストリー 歯科医のための心身医学・精神医学 第2版 和氣 裕之 砂書房</p>
参考図書	<p>口腔病理アトラス 第3版 高木 實 文光堂 こころの病気と歯科治療 宮岡等、和氣裕之、宮地英雄、依田哲也 デンタルダイヤモンド</p>
評価方法 (EV)	<p>授業および実習それぞれに対して4/5を超えた出席を必要とする。 平常試験の再試験は行わない。 実習を欠席した場合，追実習は行わない。 評価：平常試験（4回）と実習・実習試験 によって総合評価点とする。 実習：実技評価，実習態度（出席状況：共用試験・臨床実習に関連する内容なので，すべて出席すること）で評価する。</p>
学生への メッセージ オフィスアワー	<p>口腔外科領域の疾患は広範囲ですべてが歯科臨床で必要不可欠であり，共用試験と国家試験に多くの問題が出題されるので予習・復習をしっかり行なうこと。臨床実習に向けて基礎的知識を十分に学んでほしい。歯科医師の実務経験を活かし，口腔外科の臨床について説明する。 口腔顎顔面外科学実習書は実習オリエンテーション時に配布する。</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/08 (水) 1時限 09:00~10:30	ガイダンス 口腔外科総論	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔顎顔面領域の疾患には，どのような疾患があるか述べることができる。 3. 現在まで学習した科目が口腔顎顔面領域にどのように関与しているか述べる ことができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書（口腔外科学4版等） 口腔外科総論の項目の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 c 口腔粘膜の疾患 d 軟組織の疾患 e 顎骨・顎関節の疾患 f 唾液腺の疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学</p>	*石井 良昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/08 (水) 1時限 09:00～10:30	ガイダンス 口腔外科総論	E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 E-2-4) - (3) 炎症 ①菌性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。	*石井 良昌
2026/04/08 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔外科総論	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔外科診断学を理解する。 3. 得られた情報を整理, 推理し診断できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 教科書 (口腔外科学4版等) 総論の項目の熟読する。 事前学習時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無し 学修媒体: マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 ク 口腔・顎顔面の機能障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 a 先天異常・发育異常 b 歯・歯周組織の疾患 c 口腔粘膜の疾患 d 軟組織の疾患 e 顎骨・顎関節の疾患 f 唾液腺の疾患 g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 E-2-4) - (3) 炎症 ①菌性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	笠原 清弘
2026/04/15 (水) 1時限 09:00～10:30	顔面・口腔の異常	<p>【授業の一般目標】 顔面・口腔の異常について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 裂奇形を呈する疾患について診断できるようになるために, 裂奇形を理解する。 3. 口唇・口蓋裂の治療方針について概説することができる。 4. 唇裂の手術法を説明できる。 5. 口蓋裂に関する手術法を列記できる。 6. 口蓋裂に関する手術法の目的について説明できる。 7. 口唇・口蓋裂児および家族に対する指導内容について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 教科書の顔面・口腔の異常について熟読する。 事前学習時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無し 学修媒体: マルチメディア</p>	*飯塚 普子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/15 (水) 1時限 09:00～10:30	顔面・口腔の異常	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 b 口唇裂・口蓋裂</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 a 顔面裂 b 口唇裂・口蓋裂 c 口唇・頬部の異常 d 舌・口(腔)底の異常 e 歯肉・口蓋の異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p>	*飯塚 普子
2026/04/15 (水) 2時限 10:40～12:10	奇形・変形	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域歯の異常・軟組織の異常について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎口腔領域の先天性および後天性異常を述べることができる。 3. 歯の異常の種類を述べるができる。 4. 歯の異常による障害と続発症、治療法を述べるができる。 5. 口唇の異常 (裂奇形以外) の分類、障害、治療法を述べることができる。 6. 舌小帯、口唇の小帯および頬小帯の異常と治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：教科書の顎口腔領域の歯の異常、軟組織の異常について熟読する。 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 d 舌・口(腔)底の異常</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 c 口唇・頬部の異常 d 舌・口(腔)底の異常 e 歯肉・口蓋の異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ④軟組織の異常を説明できる。</p>	*山口 桜子
2026/04/22 (水) 1時限 09:00～10:30	口腔外科診断法	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域における診断法について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 現症について説明できる。 3. 口腔・顎・顔面の診察について説明できる。 4. 診断を得るために必要な検査法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：教科書の口腔外科診断法について熟読する。</p>	笠原 清弘

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/22 (水) 1時限 09:00～10:30	口腔外科診断法	<p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要症候 イ 口腔・顎顔面領域の症候 a 一般的症候〔疼痛、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常（硬さ、熱感を含む）、機能障害（開口障害を含む）〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 8 診察の基本 ウ 医療面接 d 聴取事項（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望）</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-1) 診察の基本 ①診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。</p>	笠原 清弘
2026/04/22 (水) 2時限 10:40～12:10	顎変形症	<p>【授業の一般目標】 顎骨の変形・異常について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨の変形を呈する疾患の分類を説明できる。 3. 顎変形症の鑑別診断について説明できる。 4. 顎変形症の治療方針について説明できる。 5. 顎骨の異常における障害、原因、治療法について概説することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で顎変形症について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 顎顔面の変形を来す疾患・病態・診断 a 顎変形症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 顎顔面骨の変形に対する治療 a 顎矯正手術 c 骨移植術</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ③顎変形症の病態と治療法を説明できる。</p>	笠原 清弘
2026/04/30 (木) 1時限 09:00～10:30	顎顔面骨の外傷 1	<p>【授業の一般目標】 顎顔面骨折の分類と症状および治療法について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎顔面骨折の分類、原因、頻度、全身の合併症および好発部位を理解し、概説できる。 3. 眼窩底骨折の症状と治療法を理解し説明できる。 4. 頬骨および頬骨弓骨折の症状と治療法を説明できる。 5. 上顎骨骨折の分類と症状および治療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で上顎骨骨折および頬骨骨折の分類と症状および治療法について熟読する 事前学習時間：60分</p>	笠原 清弘

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/30 (木) 1時限 09:00～10:30	顎顔面骨の外傷 1	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 d 上顎骨骨折</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 b 歯槽骨骨折 d 上顎骨骨折 e 頬骨・頬骨弓骨折 f 鼻骨骨折</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 ②外傷の治療方針（治療の優先順位）を説明できる。 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	笠原 清弘
2026/04/30 (木) 2時限 10:40～12:10	顎顔面骨の外傷 2	<p>【授業の一般目標】 下顎骨骨折の分類と症状および治療法について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 下顎骨骨折の骨折片の偏位について説明できる。 3. 下顎骨骨折の治療法を説明できる。 4. 小児の下顎骨骨折の治療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書で下顎骨骨折について熟読する 事前学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 c 下顎骨骨折</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	笠原 清弘
2026/05/13 (水) 1時限 09:00～10:30	損傷 1	<p>【授業の一般目標】 顎・口腔の損傷、歯の外傷について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 損傷の原因、分類、症状、創傷の治癒過程を理解し、治療方針および後遺症について概説できる。 3. 歯の外傷の特徴、分類、臨床症状を理解し、診断および治療方針を概説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書で損傷について熟読する 事前学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し</p>	岩井 恵理華

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/13 (水) 1時限 09:00～10:30	損傷1	<p>学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 a 口腔軟組織の損傷</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 b 顔面軟組織の損傷</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 ②外傷の治療方針（治療の優先順位）を説明できる。 ③歯の外傷と歯槽骨骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④軟組織損傷の種類、症状及び処置法を説明できる。</p>	岩井 恵理華
2026/05/13 (水) 2時限 10:40～12:10	損傷2	<p>【授業の一般目標】 顔面・口腔軟組織の損傷について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 軟組織損傷の原因、分類、症状を理解し、治療方針および後遺症について概説できる。 3. 創傷の治癒過程について理解し、説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で外傷の治療法について熟読する 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 a 口腔軟組織の損傷</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 b 顔面軟組織の損傷</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ②外傷の治療方針（治療の優先順位）を説明できる。</p>	岩井 恵理華
2026/05/20 (水) 1時限 09:00～10:30	手術の患者管理 手術の基本手技	<p>【授業の一般目標】 手術の患者管理、手術の基本手技について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 手術での患者管理および基本手技について理解する。 3. 顎口腔外科手術で用いられる手術手技を理解する。 4. 外科処置の基本である消毒法・滅菌法を理解し、列挙することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で口腔外科手術での患者管理について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し</p>	*山口 桜子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/20 (水) 1時限 09:00～10:30	手術の患者管理 手術の基本手技	<p>学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 a 手術の適応と時期</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 抜歯、口腔の小手術</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。 ⑥手指と術野の消毒法を説明できる。 ⑦清潔と不潔の区別を説明できる。</p>	*山口 桜子
2026/05/20 (水) 2時限 10:40～12:10	周術期管理	<p>【授業の一般目標】 周術期管理について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 周術期の管理の目的と意義を説明できる。 3. 周術期の合併症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書で周術期について熟読する。 事前学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 イ 周術期の管理 a 口腔の評価、口腔機能管理</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 イ 周術期の管理 d 術前・術中・術後管理</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ⑩周術期の管理の目的と意義を説明できる。</p>	*石井 良昌
2026/05/27 (水) 1時限 09:00～10:30	歯性感染症	<p>【授業の一般目標】 歯性感染症について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 炎症の概要、局所症状、全身症状を理解し、治療方針を説明できる。 3. 歯性感染症の原因を理解した上で感染経路を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で炎症について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p>	林 國雄

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/27 (水) 1時限 09:00～10:30	菌性感染症	<p>【国家試験出題基準（主）】            歯科医学各論            各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患            1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療            ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療            a 歯冠周囲炎（智歯周囲炎）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】            歯科医学各論            各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患            1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療            ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療            b 口腔・顎部軟組織の炎症            c 所属リンパ節（領域リンパ節）の炎症            d 歯性上顎洞炎</p> <p>【コアカリキュラム】            E 臨床歯学            E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患            E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患            E-2-4) - (3) 炎症            ①菌性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。            ②炎症の診断に必要な検査法を説明できる。            ③菌血症と歯性病巣感染の病態、症状、検査法及び治療法を説明できる。            ④消炎療法の意義と特徴を説明できる。            ⑤主な炎症（舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髄炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等）の症状と治療法を説明できる。</p>	林 國雄
2026/05/27 (水) 2時限 10:40～12:10	急性炎症と慢性炎症	<p>【授業の一般目標】            急性炎症と慢性炎症について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】            1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。            2. 急性炎症と慢性炎症の病理学的特徴を学ぶ。            3. 炎症の経過と病理組織学的変化について説明できる。            4. 急性期と慢性期における炎症性細胞の種類と働きについて解説できる。            5. 炎症と細胞・組織傷害との関連性について述べることができる。            6. 循環障害と炎症との関わりについて説明できる。            7. 修復・再生と炎症との関連性について解説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            事前学習項目：教科書で炎症について熟読する。            事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            アクティブラーニング：無し            学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】            講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】            202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】            歯科医学総論            総論Ⅲ 病因、病態            1 病因・病態            カ 炎症            a 病因</p> <p>【国家試験出題基準（副）】            歯科医学総論            総論Ⅲ 病因、病態            1 病因・病態            カ 炎症            b 分類と病態</p> <p>【コアカリキュラム】            E 臨床歯学            E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患            E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患            E-2-4) - (3) 炎症            ②急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。            ③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。</p>	林 國雄
2026/06/03 (水) 1時限 09:00～10:30	肉芽腫性炎	<p>【授業の一般目標】            肉芽腫性炎の分類や特徴について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】            1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。            2. 肉芽腫性炎を理解する。            3. 肉芽腫性炎の種類を述べることができる。            4. 肉芽腫性炎の病態を述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            準備学修項目：教科書の肉芽腫性炎について熟読する。            準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            アクティブラーニング：無し</p>	林 國雄

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/03 (水) 1時限 09:00～10:30	肉芽腫性炎	<p>学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療 f 肉芽腫性炎</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ⑦口腔・顎顔面領域の肉芽腫性炎の種類と特徴を説明できる。</p>	林 國雄
2026/06/03 (水) 2時限 10:40～12:10	国家試験過去問演習 1	<p>【授業の一般目標】 国家試験問題の解き方を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 国家試験の過去問の学習方法を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：口腔顎顔面外科学の授業プリントを熟読する。 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 a 先天異常・発育異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 ③顎変形症の病態と治療法を説明できる。 ④軟組織の異常を説明できる。 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 ②外傷の治療方針（治療の優先順位）を説明できる。 ③歯の外傷と歯槽骨骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤軟組織損傷の種類、症状及び処置法を説明できる。</p>	*飯塚 普子 笠原 清弘
2026/06/10 (水) 1時限 09:00～10:30	平常試験 1	<p>【授業の一般目標】 平常試験 1 90分間の試験</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 奇形・変形について説明できる。 3. 口腔顎顔面の損傷について説明できる。 4. 口腔の菌性感染症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 4月8日「口腔外科総論」から6月3日「特異性炎」までの範囲。 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p>	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *野田 一 岩井 恵理華 林 國雄
2026/06/10 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験 1 解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験 1 について復習し、理解を深める。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 奇形・変形について説明できる。</p>	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *野田 一 岩井 恵理華 林 國雄

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/10 (水) 2時限 10:40~12:10	平常試験1解説講義	3. 口腔顎顔面の損傷について説明できる。 4. 口腔の菌性感染症について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 4月8日「口腔外科総論」から6月3日「特異性炎」までの範囲。  【学修方略(LS)】 その他  【場所(教室/実習室)】 202教室	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *野田 一 岩井 恵理華 林 國雄
2026/06/17 (水) 1時限 09:00~10:30	薬剤関連顎骨壊死	【授業の一般目標】 薬剤関連顎骨壊死について説明できるようになるために必要な知識を習得する。  【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 主な炎症(骨髄炎)を概説できる。 3. 薬剤関連顎骨壊死の原因が説明できる。 4. 薬剤関連顎骨壊死の特徴について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 教科書で薬剤関連顎骨壊死について熟読する。 事前学習時間: 60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無し 学修媒体: マルチメディア  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 202教室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 f 薬剤関連顎骨疾患  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ⑥ 主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髄炎、蜂窩織炎、菌性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。	*石井 良昌
2026/06/17 (水) 2時限 10:40~12:10	口腔粘膜疾患の種類と特徴1	【授業の一般目標】 口腔粘膜疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。  【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔粘膜疾患を理解する。 3. 口腔粘膜疾患の種類、病態、病理組織学的特徴を説明できる。 4. 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着を概説できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 組織学、口腔外科学の教科書で口腔粘膜疾患について熟読する。 事前学習時間: 60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無し 学修媒体: マルチメディア  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 202教室  【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 7 主要症候 イ 口腔・顎顔面領域の症候 f 口腔粘膜の症候  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ① 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ② 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。	笠原 清弘

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/24 (水) 1時限 09:00～10:30	ウイルス感染症	<p>【授業の一般目標】 ウイルスの基本構造と感染メカニズムについて説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. ウイルスの基本構造と感染メカニズムを説明できる。 3. ウイルスの基本構造およびウイルス感染症の発症メカニズムを説明できる。 4. 単純疱疹の病態、診断、治療法を述べるができる。 5. 帯状疱疹の病態、診断、治療法を述べるができる。 6. ラムゼーハント症候群の病態、診断、治療法を述べるができる。 7. 流行性耳下腺炎の病態、診断、治療法を述べるができる。 8. ヘルパンギーナ、手足口病の病態、治療法を述べるができる。 9. 風疹、麻疹の病態を述べるができる。 10. 後天性免疫不全症候群の口腔の病態を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書でウイルス性疾患について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 b 感染症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 a 病原微生物</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療を説明できる。 E-2-4) - (10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ②口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類と症状を列挙できる。 ③口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫異常の症状を列挙できる。 ⑩ヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus &lt;HIV&gt;) 感染症と後天性免疫不全症候群 (acquired immune deficiency syndrome &lt;AIDS&gt;) の口腔症状と検査法を説明できる。</p>	*齋藤 真規
2026/06/24 (水) 2時限 10:40～12:10	消炎療法	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の炎症に対して行う消炎療法について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 消炎療法を理解する。 3. 抗炎症薬の種類を述べるができる。 4. 抗炎症薬の作用機序を述べるができる。 5. 抗炎症薬の適応症を述べるができる。 6. 抗菌薬を理解する。 7. 抗菌薬の種類を述べるができる。 8. 抗菌薬の作用機序を述べるができる。 9. 抗菌薬の適応症を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：薬理学の教科書の該当箇所を熟読する。 事前学習時間：30分 事後学習項目：授業プリント、教科書の確認をする。 事後学習時間：50分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略 (LS)】</p>	笠原 清弘

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/24 (水) 2時限 10:40～12:10	消炎療法	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 b 用量と反応 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬 c 抗微生物薬</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ⑤消炎療法の意義と特徴を説明できる。</p>	笠原 清弘
2026/07/01 (水) 1時限 09:00～10:30	嚢胞性疾患 1	<p>【授業の一般目標】 嚢胞性疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 嚢胞性疾患について理解する。 3. 顎骨嚢胞を説明できる。 4. 顎骨嚢胞の種類を述べられる。 5. 顎骨嚢胞の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科学、病理学の教科書で嚢胞について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。</p>	* 山口 桜子 * 宇都宮 忠彦
2026/07/01 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜疾患の種類と特徴 2	<p>【授業の一般目標】 口腔粘膜疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔粘膜疾患を理解する。 3. 口腔粘膜疾患の種類、病態、病理組織学的特徴を説明できる。 4. 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着を概説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で口腔粘膜疾患についての熟読する。 事前学習時間：60分</p>	* 池谷 美和

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/01 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜疾患の種類と特徴 2	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 i 口腔扁平苔癬</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 a ウイルス性口内炎 b 天疱瘡、類天疱瘡 c 多形（滲出性）紅斑 d 薬物性口内炎 e 全身性エリテマトーデス（SLE） f アフタ性口内炎 g Behçet病 j 口腔カンジダ症（鷲口瘡） k 白板症 l 紅板症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。</p>	*池谷 美和
2026/07/08 (水) 1時限 09:00～10:30	嚢胞性疾患 2	<p>【授業の一般目標】 嚢胞性疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨嚢胞を説明できる。 3. 嚢胞類似疾患を説明できる。 4. 嚢胞の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科学、病理学の教科書で嚢胞について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯源性嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 b 非歯源性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。</p>	*山口 桜子 *宇都宮 忠彦
2026/07/08 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞性疾患 3	<p>【授業の一般目標】 嚢胞性疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 軟組織嚢胞の種類を説明できる。 3. 口腔軟組織嚢胞の種類と特徴を説明できる。 4. 軟組織嚢胞の病理組織学的特徴を説明できる。 5. 口腔軟組織嚢胞の治療法を説明できる。</p>	*山口 桜子 *宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/08 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞性疾患 3	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科学、病理学の教科書で嚢胞について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 b 非歯源性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*山口 桜子 *宇都宮 忠彦
2026/07/15 (水) 1時限 09:00～10:30	歯源性腫瘍 1	<p>【授業の一般目標】 歯源性腫瘍について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯源性腫瘍の分類を列記できる。 3. 歯源性腫瘍の臨床的特徴を説明できる。 4. 歯源性腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 5. 歯源性腫瘍の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科、病理学の教科書で歯源性腫瘍について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯源性良性腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 非歯源性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	*久山 佳代 *山本 泰
2026/07/15 (水) 2時限 10:40～12:10	歯源性腫瘍 2	<p>【授業の一般目標】 歯源性腫瘍について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯源性腫瘍の分類を列記できる。 3. 歯源性腫瘍の臨床的特徴を説明できる。 4. 歯源性腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 5. 歯源性腫瘍の治療法を説明できる。</p>	*久山 佳代 *山本 泰

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/15 (水) 2時限 10:40～12:10	歯原性腫瘍 2	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科、病理学の教科書で歯原性腫瘍について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	*久山 佳代 *山本 泰
2026/07/22 (水) 1時限 09:00～10:30	嚢胞性疾患の画像診断	<p>【授業の一般目標】 嚢胞性疾患の画像診断を行うために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨嚢胞の特徴的画像所見を説明できる。 3. 歯原性嚢胞の特徴像を説明できる。 4. 非歯原性嚢胞の特徴像を説明できる。 5. 軟組織の嚢胞の特徴像を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：歯科放射線学の教科書の熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎 *小松 知広
2026/07/22 (水) 2時限 10:40～12:10	国家試験過去問演習 2	<p>【授業の一般目標】 国家試験問題の解き方を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 国家試験の過去問の学習方法を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：口腔顎顔面外科学の授業プリントを熟読する。 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p>	*飯塚 普子 笠原 清弘

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/22 (水) 2時限 10:40～12:10	国家試験過去問演習 2	<p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*飯塚 普子 笠原 清弘
2026/08/19 (水) 1時限 09:00～10:30	平常試験 2	<p>【授業の一般目標】 平常試験 2 90分間の試験</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 炎症について説明できる。 3. 口腔の粘膜疾患について説明できる。 4. 顎口腔領域の嚢胞性疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 6月17日「薬剤関連顎骨壊死」から7月22日「嚢胞性疾患の画像診断」までの範囲。 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 ②急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *野田 一 岩井 恵理華 林 國雄
2026/08/19 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験 2 解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験 2 について復習し、理解を深める。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 炎症について説明できる。 3. 口腔の粘膜疾患について説明できる。 4. 顎口腔領域の嚢胞性疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 6月17日「薬剤関連顎骨壊死」から7月22日「嚢胞性疾患の画像診断」までの範囲。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p>	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *野田 一 岩井 恵理華 林 國雄

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/08/19 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験 2 解説講義	<p>【国家試験出題基準 (主)】            歯科医学各論            各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患            2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療            オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療            a 歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】            E 臨床歯学            E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患            E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患            E-2-4) - (3) 炎症            ①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。            ②急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。            E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患            ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。            E-2-4) - (5) 嚢胞            ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。            ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *野田 一 岩井 恵理華 林 國雄
2026/09/10 (木) 1時限 09:00～10:30	非歯原性腫瘍 1	<p>【授業の一般目標】            非歯原性良性腫瘍、非歯原性悪性腫瘍について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】            1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。            2. 非歯原性良性腫瘍を分類できる。            3. 非歯原性良性腫瘍の特徴を説明できる。            4. 非歯原性悪性腫瘍を分類できる。            5. 非歯原性悪性腫瘍の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            事前学習項目：口腔外科学、病理学の教科書で非歯原性腫瘍について熟読する。            事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            アクティブラーニング：無し            学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】            講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】            202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】            歯科医学各論            各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患            2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療            カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患            c 非歯原性良性腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】            歯科医学各論            各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患            2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療            カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患            d 非歯原性悪性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】            E 臨床歯学            E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患            E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患            E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患            ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。            ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。</p>	*末光 正昌 *山本 泰
2026/09/10 (木) 2時限 10:40～12:10	非歯原性腫瘍 2	<p>【授業の一般目標】            非歯原性良性腫瘍、非歯原性悪性腫瘍について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】            1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。            2. 非歯原性良性腫瘍を分類できる。            3. 非歯原性良性腫瘍の特徴を説明できる。            4. 非歯原性悪性腫瘍を分類できる。            5. 非歯原性悪性腫瘍の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            事前学習項目：口腔外科学、病理学の教科書で非歯原性腫瘍について熟読する。            事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            アクティブラーニング：無し            学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】            講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】            202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p>	*末光 正昌 *山本 泰

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/10 (木) 2時限 10:40～12:10	非歯原性腫瘍 2	<p>歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 非歯原性良性腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 d 非歯原性悪性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。</p>	*末光 正昌 *山本 泰
2026/09/17 (木) 1時限 09:00～10:30	前癌状態、腫瘍類似疾患	<p>【授業の一般目標】 前癌状態と腫瘍類似疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 前癌状態の概念を理解し、特徴を説明できる。 3. 腫瘍類似疾患と腫瘍性疾患の鑑別を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で前癌病変と前癌状態の違い、腫瘍類似疾患の種類について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア パワーポイントを用いて、講義する</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 k 白板症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 口腔癌 1 紅板症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ⑤前癌病変の特徴、症状及び治療法を説明できる。 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。</p>	酒巻 裕之 *久山 佳代
2026/09/17 (木) 2時限 10:40～12:10	唾液腺疾患 1	<p>【授業の一般目標】 唾液腺疾患の種類と特徴、治療法について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 唾液腺疾患の種類について説明できる。 3. 唾液腺疾患の臨床的特徴を説明できる。 4. 唾液腺疾患の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で唾液腺腫瘍について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p>	赤木 南美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/17 (木) 2時限 10:40～12:10	唾液腺疾患 1	<p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 キ 軟組織、唾液腺</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	赤木 南美
2026/09/24 (木) 1時限 09:00～10:30	超音波検査、核医学検査による顎口腔領域の画像診断	<p>【授業の一般目標】 超音波検査、核医学検査の画像診断を適切に行うために必要な知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 超音波検査による顎顔面軟組織領域の正常および異常像の画像所見を説明できる。 3. 核医学検査による顎顔面領域の正常および異常像の画像所見を説明できる。 4. 超音波検査、核医学検査の利点・欠点を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：歯科放射線学の教科書の熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 検査 2 画像検査 キ 核医学検査 a 原理、特徴、順応</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 検査 2 画像検査 ク 超音波検査 a 原理、特徴、適応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography &lt;CT&gt;)、歯科用コンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imaging &lt;MRI&gt;)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎 *小松 知広
2026/09/24 (木) 2時限 10:40～12:10	CT、MRIによる顎口腔領域の画像診断	<p>【授業の一般目標】 CT、MRIによる顎口腔領域の画像診断を適切に行うために知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. CT、MRIによる顎口腔の正常像を述べることができる。 3. CTによる顎口腔領域の画像診断ができる。 4. MRIによる顎口腔領域の画像診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：歯科放射線学の教科書の熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 検査 2 画像検査 オ CT a 原理、特徴、適応</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論</p>	*伊東 浩太郎 *小松 知広

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/24 (木) 2時限 10:40～12:10	CT、MRIによる顎 口腔領域の画像診 断	総論Ⅵ 検査 2 画像検査 カ MRI a 原理、特徴、適応  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コーンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imagin g <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。	*伊東 浩太郎 *小松 知広
2026/10/01 (木) 1時限 09:00～10:30	口腔癌 1	【授業の一般目標】 口腔癌の臨床病態、口腔癌の転移について説明できるようになるために必要な知識を習得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔癌の臨床病態とくに発生部位別特徴を説明できる。 3. 口腔癌の転移の様相を説明できる。 4. TNM分類、病期分類を列記できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で口腔癌について熟読する。 事前学習時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 202教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 口腔癌  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。	八木原 一博
2026/10/01 (木) 2時限 10:40～12:10	口腔癌 2	【授業の一般目標】 口腔癌の診断、口腔癌の外科的治療について説明できるようになるために必要な知識を習得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔癌の細胞診、生検などの検査法を列記できる。 3. 口腔癌の臨床的診断過程を説明できる。 4. 口腔癌の外科的治療を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で口腔癌について熟読する。 事前学習時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 202教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療 a TNM分類、病期分類  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療 b 外科療法  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画	八木原 一博

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/01 (木) 2時限 10:40~12:10	口腔癌 2	像診断) 及び治療法を説明できる。	八木原 一博
2026/10/08 (木) 1時限 09:00~10:30	悪性腫瘍 1	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の悪性腫瘍について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨の悪性腫瘍について種類と特徴を説明できる。 3. 顎骨の悪性腫瘍について治療法を説明できる。 4. 軟部肉腫について種類と特徴を説明できる。 5. 軟部肉腫について治療法を説明できる。 6. 悪性リンパ腫について種類と特徴を説明できる。 7. 悪性リンパ腫の治療法を説明できる。 8. 悪性黒色腫について特徴と治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で悪性腫瘍について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 d 非歯原性悪性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。</p>	*山本 泰
2026/10/08 (木) 2時限 10:40~12:10	悪性腫瘍 2	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の悪性腫瘍について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨の悪性腫瘍について種類と特徴を説明できる。 3. 顎骨の悪性腫瘍について治療法を説明できる。 4. 軟部肉腫について種類と特徴を説明できる。 5. 軟部肉腫について治療法を説明できる。 6. 悪性リンパ腫について種類と特徴を説明できる。 7. 悪性リンパ腫の治療法を説明できる。 8. 悪性黒色腫について特徴と治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で悪性腫瘍について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 d 非歯原性悪性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。</p>	*山本 泰
2026/10/22 (木) 1時限 09:00~10:30	唾液腺疾患 2	<p>【授業の一般目標】 唾液腺疾患の種類と治療について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p>	赤木 南美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/22 (木) 1時限 09:00～10:30	唾液腺疾患 2	<p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. シェーグレン症候群の特徴、症状、治療法を説明できる。 3. 唾液腺の非腫瘍性疾患について理解する。 4. 唾液腺疾患の病理組織学的特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書で唾液腺疾患について熟読する。 事前学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 e Sjögren症候群</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 d 唾液腺炎、唾液管炎 1 口腔乾燥症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ③唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤腫瘍類似疾患を概説できる。 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑦Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	赤木 南美
2026/10/22 (木) 2時限 10:40～12:10	国家試験過去問演習 3	<p>【授業の一般目標】 国家試験問題の解き方を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 国家試験の過去問の勉強方法を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：口腔顎顔面外科学の授業プリントを熟読する。 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 2 口腔・顎顔面の症候 キ 軟組織、唾液腺</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*飯塚 普子 笠原 清弘
2026/10/29 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験 3	<p>【授業の一般目標】 平常試験 3 90分間の試験</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎口腔領域の腫瘍・腫瘍類似疾患を説明できる。 3. 唾液腺疾患を説明できる。 4. 顎口腔の画像診断の種類と読影ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 9月10日「非歯原性腫瘍」から10月22日「唾液腺疾患 2」までの範囲。 事前学習項目：授業プリント、教科書を熟読する。 事前学習時間：300分</p>	*石井 良昌 笠原 清弘 *飯塚 普子 *芹澤 多恵 赤木 南美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/29 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験 3	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 非歯原性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。 ⑤前癌病変の特徴、症状及び治療法を説明できる。 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。</p>	<p>*石井 良昌 笠原 清弘 *飯塚 普子 *芹澤 多恵 赤木 南美</p>
2026/10/29 (木) 2時限 10:40～12:10	平常試験 3 解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験 3</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎口腔領域の腫瘍・腫瘍類似疾患を説明できる。 3. 唾液腺疾患を説明できる。 4. 顎口腔の画像診断の種類と読影ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 9月10日「非歯原性腫瘍」から10月22日「唾液腺疾患 2」までの範囲</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ①唾液腺の発育異常を概説できる。 ②唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ③唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤腫瘍類似疾患を概説できる。 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	<p>*石井 良昌 笠原 清弘 *飯塚 普子 *芹澤 多恵 赤木 南美</p>
2026/11/05 (木) 1時限 09:00～10:30	顎関節疾患 1	<p>【授業の一般目標】 顎関節症の診断、治療ができるようになるために、顎関節症の病態とそれに対する治療方法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎関節疾患における顎関節症を説明できる。 3. 顎関節症と鑑別を要する疾患について説明できる。 4. 顎関節症の病態分類を説明できる。 5. 病態分類別の症状を説明できる。 6. 各病態の画像検査所見を説明できる。 7. 顎関節症に対する治療方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で顎関節症について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：パワーポイント、Google Calendarにアップした資料を用いて講義を</p>	<p>*内田 貴之</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/05 (木) 1時限 09:00～10:30	顎関節疾患 1	<p>行います。紙媒体の配布は行いません。</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患 (発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患) の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑥顎関節の構造と機能を説明できる。 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ②顎関節疾患 (発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患) の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*内田 貴之
2026/11/05 (木) 2時限 10:40～12:10	顎関節疾患 2	<p>【授業の一般目標】 顎関節疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎関節疾患の外科的治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で顎関節疾患について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 d 顎関節脱臼</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 k 顎関節強直症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患 (発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患) の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	笠原 清弘
2026/11/12 (木) 1時限 09:00～10:30	神経疾患	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の神経支配および神経疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔顎顔面領域の神経の分布と機能を理解する。 3. 疼痛を認める疾患について説明できる。 4. 麻痺を認める疾患について説明できる。 5. けいれんや不随意運動を呈する疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科学、解剖学の口腔顎顔面領域の神経支配・神経疾患について熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p>	赤木 南美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/12 (木) 1時限 09:00～10:30	神経疾患	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 カ 頭頸部の神経系 a 脳神経</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経・運動器疾患の病態・診断・治療 a 三叉神経痛 c 顔面神経麻痺</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。 ③顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。 ④三叉神経麻痺 (感覚麻痺、運動麻痺) の原因、症状及び治療法を説明できる。</p>	赤木 南美
2026/11/12 (木) 2時限 10:40～12:10	局所麻酔	<p>【授業の一般目標】 局所麻酔法について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 局所麻酔法の種類、手技を概説できる。 3. 手指消毒法を理解する。 4. 頭頸部の診察法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：頭頸部の診察法、手指消毒法、局所麻酔法である浸潤麻酔法、伝達麻酔法について説明できるよう学習する。 事前学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 カ 麻酔法 a 局所麻酔</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 エ 消毒・滅菌と感染対策 a 消毒・滅菌法</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔 (表面麻酔・浸潤麻酔) を実施できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-4) 歯科医療に必要な麻酔と全身管理 E-1-4) - (3) 局所麻酔法 ①局所麻酔の特徴と目的及び種類を説明できる。 ⑤局所麻酔の実施法と合併症 (偶発症) を説明できる。 E-1-5) 小手術 ⑦清潔と不潔の区別を説明できる。 ⑧器具の消毒・滅菌法を説明できる。</p>	赤木 南美
2026/11/19 (木) 1時限 09:00～10:30	血液疾患	<p>【授業の一般目標】 各種血液疾患について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 悪性リンパ腫の臨床的病態を述べることができる。 3. 多発性骨髄腫の臨床的病態を述べることができる。 4. 多発性骨髄腫の特徴的な臨床検査データを列挙できる。 5. 無顆粒球症の臨床的病態を述べることができる。 6. 無顆粒球症の特徴的な臨床検査データを列挙できる。 7. GVHD の臨床的病態を述べることができる。 8. GVHD の原因・対策を述べることができる。</p>	*深津 晶

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/19 (木) 1時限 09:00～10:30	血液疾患	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：人体の血液成分、人体の白血球の種類、各種白血球の働きについて教科書を熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 d 血液・造血器疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ケ 白血球系疾患 d 多発性骨髄腫 c 特発性血小板減少性紫斑病〈免疫性血小板減少性紫斑病〉〈ITP〉</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。</p>	*深津 晶
2026/11/19 (木) 2時限 10:40～12:10	心因性疾患、心身症、心身医学	<p>【授業の一般目標】 心因性疾患、心身症、心身医学について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容について教授する。 2. 心因性疾患、心身症、心身医学について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書の心因性疾患について熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経・運動器疾患の病態・診断・治療 f 非歯原性歯痛</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-3) 精神・心身医学的疾患 ①心身相関を説明できる。 ②口腔顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態を説明できる。 ③心理テストの目的と意義を説明できる。 ④舌痛症を説明できる。 ⑤歯科治療恐怖症を説明できる。 ⑥心身医学的治療を説明できる。</p>	和氣 裕之
2026/11/26 (木) 1時限 09:00～10:30	拔牙学 1	<p>【授業の一般目標】 拔牙について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 拔牙の適応症、禁忌症を説明できる。 3. 拔牙の偶発症を説明できる。 4. 拔牙の手技を説明できる。 5. 単純拔牙、難拔牙、埋伏歯の拔牙について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書で拔牙について熟読する。 事前学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p>	*芹澤 多恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/26 (木) 1時限 09:00～10:30	拔牙学1	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 拔牙、口腔の小手術</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。</p>	*芹澤 多恵
2026/11/26 (木) 2時限 10:40～12:10	外傷全般	<p>【授業の一般目標】 外傷の診断・治療法について説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 骨折について説明できる。 3. 歯の脱臼について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書、外傷について前期の授業プリントの確認と教科書を熟読する。 事前学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 c 下顎骨骨折</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 a 口腔軟組織の損傷 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 b 歯槽骨骨折 d 上顎骨骨折 e 頬骨・頬骨弓骨折</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。</p>	*青木 暁宣
2026/12/03 (木) 1時限 09:00～10:30	拔牙学2 切開縫合	<p>【授業の一般目標】 単純拔牙、複雑拔牙、埋伏歯の拔牙について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 粘膜の切開・剥離について理解し、説明できる。 3. 歯肉粘膜、皮膚の解剖学的特徴を説明できる。 4. 拔牙患者の患者管理について説明できる。 5. 埋伏歯拔牙の手技について説明できる。 6. 縫合について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：拔牙および切開法について教科書を熟読する。 事前学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p>	*山口 桜子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/03 (木) 1時限 09:00～10:30	拔牙学2 切開縫合	<p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 拔牙、口腔の小手術</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 d 止血法、縫合法 f 拔牙、口腔の小手術 h 創の管理</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。 ③軟組織の小手術を実施できる。</p>	*山口 桜子
2026/12/03 (木) 2時限 10:40～12:10	国家試験過去問演習4	<p>【授業の一般目標】 国家試験問題の解き方を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 国家試験の過去問の勉強方法を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：口腔顎顔面外科学の授業プリントを熟読する。 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	*飯塚 普子 笠原 清弘
2026/12/10 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験4	<p>【授業の一般目標】 平常試験4 90分間の試験</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎関節疾患が説明できる。 3. 神経疾患が説明できる。 4. 手術について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 11月5日「顎関節疾患」から12月3日「拔牙学2・切開縫合」までの範囲。 事前学習項目：授業プリント、教科書を熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患</p>	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *飯塚 普子 *芹澤 多恵 赤木 南美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/10 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験 4	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法(細胞診、組織診、画像診断)及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患(発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患)の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *飯塚 普子 *芹澤 多恵 赤木 南美
2026/12/10 (木) 2時限 10:40～12:10	平常試験 4 解説講義	【授業の一般目標】 平常試験 4  【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.顎関節疾患を説明できる。 3.神経疾患について説明できる。 4.手術の基本について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 11月5日「顎関節疾患」から12月3日「抜歯学2・切開縫合」までの範囲。  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施なし  【学修方略(LS)】 その他  【場所(教室/実習室)】 202教室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法(細胞診、組織診、画像診断)及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患(発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患)の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。 ③顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。 ④三叉神経麻痺(感覚麻痺、運動麻痺)の原因、症状及び治療法を説明できる。	*石井 良昌 笠原 清弘 *山口 桜子 *飯塚 普子 *芹澤 多恵 赤木 南美
2026/12/17 (木) 1時限 09:00～10:30	口腔外科演習オリエンテーション	【授業の一般目標】 口腔外科臨床で行う基本的手技ができるようになるために学修する。  【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.頭頸部の診察ができる。 3.手指消毒ができる。 4.浸潤麻酔ができる。 5.単純抜歯ができる。 6.縫合ができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目： 事前学習時間：0分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 第2実習室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論V 診察 1 診察総論 イ 診察の基本  【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論V 診察 1 診察総論 ウ 全身の診察 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術	*飯塚 普子 *芹澤 多恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/17 (木) 1時限 09:00～10:30	口腔外科演習オリエンテーション	b 消毒と滅菌 d 止血法、縫合法 f 抜歯、口腔の小手術  <b>【コアカリキュラム】</b> G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純抜歯を実施できる。	*飯塚 普子 *芹澤 多恵
2026/12/17 (木) 2時限 10:40～12:10	演習1 頭頸部の診察 手指消毒 単純抜歯に使用する器具	<b>【授業の一般目標】</b> 頭頸部の診察、手指消毒、が実施できるようになるために必要な技能を習得する。  <b>【行動目標 (SBOs)】</b> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部の診察に必要な技能、態度を習得する。 3. 手指消毒法を習得する。 4. 単純抜歯に必要な器具器材について説明できる。 5. 浸潤麻酔ができる  <b>【準備学修項目と準備学修時間】</b> 事前学習項目：実習書を熟読する。 事前学習時間：20分  <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> 実施せず 相互実習、器具を用いた実習  <b>【学修方略 (LS)】</b> 演習  <b>【場所 (教室/実習室)】</b> 第2実習室  <b>【国家試験出題基準 (主)】</b> 歯科医学総論 総論V 診察 1 診察総論 イ 診察の基本  <b>【国家試験出題基準 (副)】</b> 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 b 消毒と滅菌 f 抜歯、口腔の小手術 a 局所麻酔  <b>【コアカリキュラム】</b> G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ⑥手指と術野の消毒法を説明できる。	*石井 良昌 *山口 桜子 *飯塚 普子 *野田 一多恵 *芹澤 南美 赤木 南美 岩井 恵理華 林 國雄 *大峰 浩隆 *西村 均 *濱野 美緒 *伏見 習 *鈴木 麻由 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 田島 秀人 北村 英二 *岩井 聡 *渡邊 由梨子
2026/12/24 (木) 1時限 09:00～10:30	演習2 局所麻酔 抜歯	<b>【授業の一般目標】</b> 局所麻酔と抜歯が実施できるようになるために必要な技能を身につける。  <b>【行動目標 (SBOs)】</b> 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 局所麻酔の手法を説明できる。 3. 局所麻酔が実施できる。 4. 適切な抜歯鉗子を選択できる。 5. 抜歯操作が実施できる。  <b>【準備学修項目と準備学修時間】</b> 事前学習項目：実習書を熟読する。 事前学習時間：20分  <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> 相互実習、実際の診療用器具を用いた実習  <b>【学修方略 (LS)】</b> 演習  <b>【場所 (教室/実習室)】</b> 第2実習室  <b>【国家試験出題基準 (主)】</b> 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 抜歯、口腔の小手術  <b>【国家試験出題基準 (副)】</b>	*石井 良昌 *山口 桜子 *飯塚 普子 *野田 一多恵 *芹澤 南美 赤木 南美 岩井 恵理華 林 國雄 *大峰 浩隆 *西村 均 *濱野 美緒 *伏見 習 *鈴木 麻由 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 田島 秀人 北村 英二 *岩井 聡 *渡邊 由梨子 *渡邊 駿

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/24 (木) 1時限 09:00～10:30	演習2 局所麻酔 抜歯	<p>歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 抜歯、口腔の小手術 a 局所麻酔</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純抜歯を実施できる。</p>	<p>*石井 良昌 *山口 桜子 *飯塚 普子 *野田 一 *芹澤 多恵 赤木 南美 岩井 恵理華 林 國雄 *大峰 浩隆 *西村 均 *濱野 美緒 *伏見 習 *鈴木 麻由 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 田島 秀人 北村 英二 *岩井 聡 *渡邊 由梨子 *渡邊 駿</p>
2026/12/24 (木) 2時限 10:40～12:10	演習3 抜歯学 手指消毒 縫合 局所麻酔 頭頸部診察	<p>【授業の一般目標】 抜歯と付随する縫合操作ができるようになるために必要な技能を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 抜歯の手技を説明できる。 3. 抜歯器具を選択できる。 4. 切開操作ができる。 5. 縫合について説明できる。 6. 縫合ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書を熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 相互実習、診療用器具を用いた実習</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 1 診察総論 イ 診察の基本</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 抜歯、口腔の小手術</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純抜歯を実施できる。</p>	<p>*石井 良昌 *山口 桜子 *飯塚 普子 *野田 一 *芹澤 多恵 赤木 南美 岩井 恵理華 林 國雄 *大峰 浩隆 *西村 均 *濱野 美緒 *伏見 習 *鈴木 麻由 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 田島 秀人 北村 英二 *岩井 聡 *渡邊 由梨子 *渡邊 駿</p>
2027/01/14 (木) 1時限 09:00～10:30	演習4 頭頸部診察、手指 消毒、局所麻酔、 抜歯学、縫合	<p>【授業の一般目標】 頭頸部診察、手指消毒、局所麻酔、抜歯、縫合ができるようになるために実習をする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部診察ができる。 3. 手指消毒ができる。 4. 局所麻酔ができる。 5. 抜歯ができる。 6. 縫合ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書を熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 相互実習、診療用器具を用いた実習</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 1 診察総論</p>	<p>*石井 良昌 *山口 桜子 *飯塚 普子 *野田 一 *芹澤 多恵 赤木 南美 岩井 恵理華 林 國雄 *大峰 浩隆 *西村 均 *濱野 美緒 *伏見 習 *鈴木 麻由 *渡邊 駿</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2027/01/14 (木) 1時限 09:00～10:30	演習4 頭頸部診察、手指 消毒、局所麻酔、 拔牙学、縫合	イ 診察の基本  【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 b 消毒と滅菌 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 拔牙、口腔の小手術  【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。	*石井 良昌 *山口 桜子 *飯塚 普子 *野田 一多恵 *芹澤 南美 赤木 恵理華 岩井 恵理華 林 國雄 *大峰 浩隆 *西村 均美緒 *濱野 美緒 *伏見 習麻由 *鈴木 麻由 *渡邊 駿
2027/01/14 (木) 2時限 10:40～12:10	演習5 実習試験 頭頸部診察、手指 消毒、局所麻酔、 拔牙学、縫合	【授業の一般目標】 頭頸部診察、手指消毒、局所麻酔、拔牙、縫合ができるようになるために実習をする。  【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部診察ができる。 3. 手指消毒ができる。 4. 局所麻酔ができる。 5. 拔牙ができる。 6. 縫合ができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書を熟読する。 事前学習時間：20分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 相互実習、診療用器具を用いた実習  【学修方略（LS）】 演習  【場所（教室/実習室）】 第2実習室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 1 診察総論 イ 診察の基本  【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 b 消毒と滅菌 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 拔牙、口腔の小手術  【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。	*石井 良昌 *山口 桜子 *飯塚 普子 *野田 一多恵 *芹澤 南美 赤木 恵理華 岩井 恵理華 林 國雄 *大峰 浩隆 *西村 均美緒 *濱野 美緒 *伏見 習麻由 *鈴木 麻由 *渡邊 駿